

伝統文化を体験する～落語～2



日時 2026年3月3日 午前10時～10:45

対象 5歳児

前回1月に落語を楽しんだぞう組の子ども達。今日までの間に、子ども達は、発表会で何をするのか考えて練習をしてきました。所作を発表する子ども達は、おそばをすすったり、お手紙を書く動作を練習しています。みんなで「じゅげむ、じゅげむ」を暗唱する姿も見られます。

今回、初めてふと筆で、墨汁で半紙に字を書く体験をしました。めくりという小道具を作ることも経験の一つとして今日までに用意しました。まずは、新聞紙にまっすぐ線を引くことから始めて、ひらがなや漢字を書きました。自分の本名を書く子どももいれば、芸名を考えて書く子どももいました。ほとんどの子どもが、本番1回で書き上げることができました。集中して取り組む姿が見られました。集中力の持続時間もこんなに長くなったんだと感心させられました。

環境設定

机2台、CDデッキ、めくり、座布団、緋毛氈、小唄のCD、扇子、手ぬぐい

子どもの活動

子ども達は、まず、笑福亭 茶光さんの落語を聞き、一人の噺家が、1人から2人、3人、4人、5人の役をすることや、目で、麺の長さや刀の長さを決めることを思い出す時間を持ちました。

そして、やってみたい子どもから順番に、一人ずつ前の舞台上上がり、座布団に座って、「じゅげむ」を言ったり、おそばをすするところを見てもらいました。お手紙を書く人は、手紙を書いた後、茶光さんに「なんて手紙を書いたの？」と聞かれて、「お父さん、ありがとう。て書いた。」「おかあさん、大好きだよ。て書いたよ。」と答えていました。じゅげむをした子ども達は、緊張して小さな声になってしまいました。茶光さんに、「大きな声で、聴いている人たちに聞こえるように言うと、もっといいよ」「(長いのに) じゅげむを最後まで、覚えていてすごいね」と言ってもらいました。子ども達は、本番さながらの舞台上、緊張した様子でしたが、みんな一人ずつ舞台の上の座布団に座り、練習したことを茶光さんにみてもらいました。

子ども達の様子

一人一人舞台上上がり、練習したことを見てもらいました。舞台上上がって、お友達に見られることは、緊張する体験だったと思います。いつもは大きな声が出る子ども達も、小さい声になったり、早口になったりしていました。茶光さんに、一人一人「上手に最後までじゅげむを言えました」「おそばを持つ手は、お皿でなく、どんぶりを持つようにして」と助言をもらいました。一人一人、褒めてもらえて嬉しそうでした。

活動のふりかえり

前回から、子ども達が自分で選んだものを練習し、「じゅげむじゅげむ」を言えるようになっていた子ども達ですが、本番のような舞台上ライトを浴びて座ると緊張する様子がありました。座布団に座ったら、「まず、自分の名前と何をします。というといいです。」そして「お辞儀をして始めて、終わってください。」との茶光さんのアドバイスはとても良かったと思います。

今日も落語を聞いて、大笑いをした子ども達でした。落語が楽しかったという体験をしてもらったので良かったです。言葉と目や所作でたくさんのことを伝えられる落語を、いよいよ次回の発表に向けて楽しんで学べるといいなと思いました。



